

令和5年度 奈良県立十津川高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成、将来の地域を担う人材の育成及び輩出
年度重点目標	1 社会で通用する人材の育成 2 ICT教育の推進 3 働き方改革の推進

1 スクール・ポリシーの内容

対象期間	令和4年4月～令和7年3月
教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) 本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 本校で学ぶ強い意志のある生徒 3 相手を尊重し、互いの違いを認め合える生徒 4 集団生活のできる生徒 5 将来の進路について自ら考え、その実現に向け自ら行動できる生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) 本校では、十津川の雄大な自然と地域の温もりの中で、スクール・ミッション達成のために以下の教育を行います。 1 生活面、学習面において、生徒一人一人に合ったきめ細かな指導を行い、基本的な生活習慣の定着に基づき確かな学力の育成に取り組みます。 2 生徒一人一人の興味関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成し、学校の特色を活かした学校設定科目を開設して専門性を深める教育を行います。 3 多様な学習に取り組み、生徒自ら課題を見つけ、自ら実践し、ICT機器を活用して考えを表現できる力を育成します。 4 生徒や地域住民の生命と未来を守るため、防災教育及びキャリア教育を推進します。 5 規律ある集団生活を通して、規範意識やコミュニケーション能力を育成します。 6 小中高の連携、ボランティア活動など地域と共にある学校づくりの活動を通して、自尊感情や自己有用感を涵養します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) 本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成に努めます。 1 人とのつながりを大切にすることを基に、地域への愛着や誇りをもって地域に貢献しようとするができる。 2 卒業後も向上心をもって意欲的に学び続けることができる。 3 正しい判断力を身に付け、自らの進路を切り開くことができる。 4 自然災害から身を守り、他人や地域の安全を支えることができる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	自己有用感の醸成	・アンケート調査で「私のことをわかってくれる友だちがいる」と回答する生徒の割合70%以上 ・アンケート調査で「私は保護者や家族から大切にされている」と回答する生徒の割合70%以上	・「私のことをわかってくれる友だちがいる」と回答する生徒の割合が昨年度（74%）を上回る。 ・「私は保護者や家族から大切にされている」と回答する生徒の割合が昨年度（88%）を維持する。			
	望ましい食習慣の確立	・「食習慣」に関する保健だより等を年1回以上発行 ・朝食摂取率80%以上	・「食習慣」に関する保健だより等を1回発行 ・アンケートで「朝食を摂取している」と回答する生徒の割合、80%以上。			
	望ましい運動習慣の確立	アンケート調査で「運動することが好き」と回答する生徒の割合80%以上	アンケート調査で「運動することが好き」と回答する生徒70%以上。			
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはくむ	主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善	生徒の目標達成度平均70%以上	アンケートでの自己評価により、目標達成度平均70%以上			
	少人数クラス・選択授業の充実	生徒の授業満足度平均70%以上	アンケートでの自己評価により、目標達成度平均70%以上			
	ICTを活用した教育の推進	・ICTを活用した授業時間外の学習時間1日1時間以上 ・生徒の情報活用能力の向上80%以上 ・教員のICT指導力の向上80%以上	・ICTを活用した授業時間外の学習時間週3時間以上 ・生徒の情報活用能力の向上75%以上 ・教員のICT指導力の向上75%以上			
3. 働く意欲と働く力をはくむ	学校における働き方改革の推進	ICTを活用して校務を効率化し、ワークライフバランスの推進を図りながら、教育の質を向上させる。 ・職員会議の時間短縮（会議時間40分以内） ・学期中の19時30分閉庁（通年）	・職員会議の時間短縮（会議資料の完全ペーパーレス化。会議時間1時間以内） ・学期中の19時30分閉庁（週2日）			
	インターンシップの充実	アカデミック・インターンシップを含むインターンシップ参加率50%以上	就職を希望する2年生のアカデミック・インターンシップを含むインターンシップ参加率50%以上			
	産業界との連携の推進	「出前授業」「現地研修会」に協力いただいた企業数、学校数を合わせて20社（校）以上	協力企業3社、協力学校2校以上			
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	キャリア教育の推進	キャリアパスポート活用率の向上	キャリアパスポート活用率70%以上			
	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会の年度2回の開催	5月、10月、3月に学校運営協議会を開催			
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	十津川村に関する理解を深めることができた実感できる生徒の割合80%以上	吉野熊野学（総合的な探究の時間）において、1年生は年間3回以上、2年生は5回以上地域理解を深めるフィールドワークや実習を行う。			
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	地域の活性化に資する活動の推進	地域住民とふれあう活動ができた実感できる生徒の割合80%以上	地域住民にあいさつをできた生徒の割合が80%以上			
	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	いじめは絶対に許されないと理解する生徒の割合100%	いじめは絶対に許されないと理解する生徒の割合100%（昨年度）を維持			
	特別支援教育の推進	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期ごとに対象生徒の有無と支援計画や指導計画などを用いて状況の確認を実施			
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習資料を活用したLHRの実施	・「なかまとともに」などを活用した、時代や生徒の状況に照らし合わせたLHRの実施 ・事後アンケートで「しっかり学習することができた」の回答80%以上	・各学年の人権に係わるHRの実施回数5回以上 ・年度末の人権に係わるアンケートで「しっかり学習することができた」と回答する生徒40人以上			

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--